

ESLに参加して

総合管理学部総合管理学科 4年 中野 恵

このプログラムに参加し、モンタナ州では“出会い”“刺激”“学び”この3つが大きなテーマとなって、私は貴重な経験をすることができたと思います。

今回は初めての海外ということもあり、現地（アメリカ）についた時には足が震えていたのを覚えています。初日から飛行機の乗り継ぎができず、ESLの参加生徒と団結して空港内を走り回りました。事前にトラブルの対処法など調べていたのですが何の役にも立たず、拙い英語で空港関係者やツアー担当者に連絡をとりながら何とかモンタナ州ビリングス市に辿り着くことができたのです。空港に着いたと同時にホストファミリーからの温かい歓迎を受け、これまでにあったトラブルや不安を一気に忘れて、やっと安心して家で“熟睡”しました。（笑）



毎日スケジュールにはイベントや体験学習などの予定が組まれてあり、“明日は何をするのだろう”と、前日の夜にステイ先で予定の確認をするのが楽しみでした。午前中は大学で授業、午後からは学外に出て（または校内で）探検ゲームや、施設見学に行くのがベースとなるスケジュールでした。中でもとくに楽しかったのは、Montana Fair というモンタナのお祭りを体験したことです。私は“カウボーイ”の格好や文化に興味があり、とくに本物のロデオゲームを見るのがとても楽しみでした。広大な耕地にある競技場でロデオゲームを見学し、暴れる牛とまるで一心同体となって手懐けていたカウボーイ！テレビでしか見たことないその姿を、この目で見ることができとても興奮しました。女性のカウガール（？）もいらっしやだったので、“いつか自分も本物のロデオを体験したいなあ”と感じました。お祭りに出ている屋台は、どのお店も興味深い看板が掲げてあり、とくに食べ物に関してはお店の人に「これは何？」と聞いたりして回りました。日本の屋台と若干似ている点があり、“キャラメルがかかったり んごあめ”、“くじ引き”などアメリカ版の屋台はどれも興味深いものばかりでした。一番の違いは“移動式の遊園地”があること。小さな観覧車やジェットコースターなど、お祭り用のサイズであったのは驚きました。他の日程にもインディアンの伝統的なお祭りや裁判所で実際に裁判を見学するなど、貴重な体験をたくさんさせていただきました。毎日珍しいものに触れ体験し、今でも頭に思い浮かぶくらい濃い内容でした。



ホームステイ先では、日本文化にとっても興味を抱いているホストファザーと、私の拙い英語を聞きとって理解してくれる優しいホストマザー、そして自然と生き物が大好きな幼い2人の姉妹がいつも私を温かく迎えてくれました。ビリングスに着く前は、“英語のできない私を受け入れてくれるだろうか？”、“子どもたちは懐いてくれるだろうか”不安でいっぱいでした。



しかしその不安も初日から一気に解消され、今まで自分は英語ができないからといって、外国人との会話に対して臆病になっていたこともすっかり忘れていました。ステイ先を訪問した際にまず驚いたのは家の大きさです！隣は公園かと思いき、「子どもたちは隣に公園があつていいな」とホストマザーに言うと、「隣は私たちの庭よ！」と言われ、トランポリンにジャングルジムまであったので見間違えてしまいました。ビリングスは（というかアメリカは）、一般的に二階建てでなく地下室を造る家が多みたいです。私も地下室の一室を貸してもらい、また地下室は広いゲストルームなのでほぼ使い放題で満喫させていただきました。ホストファザーは夜になると日本についての文化や料理、習慣の質問をしては興味深そうな顔で話を聞き、また英語には様々な“言い回し方”があるんだよと、知恵となる話をたくさんしてくれました。



モンタナ州立大学（MSUBに略）は、丁度夏休み期間中でなかなか生徒に会うことはできませんでしたが、外国の学校生活を十分に体験することができました。校内の敷地には、ウサギや七面鳥などの動物が放し飼いにされているくらいのどかで、隣の塔に行くまで自転車が必要なほど敷地が広く驚きました。また校内ですれ違う人に挨拶すると、必ず笑顔で「Hi」と声を返してくれて歓迎されているのだと実感しました。校内で目にとまった場所は、売店・トイレ・図書館でまず売店はまるでちょっとしたショップの様に商品が充実しており、MSUBグッズが一般の方に販売されていました。トイレはドアの上と下に空間があり、便器も大きくなかなか安心できませんでした。図書館は飲食自由で、全ての本がパソコンから閲覧できるというのは驚きでした。ESLプログラムに参加した県立大学の生徒と中国から留学していた生徒、そして英語の勉強を手伝っていただいたMSUBの先生、この約3週間生活を共にしたことで、十分と言っていいほど仲良くなれました。

このように約3週間という（日本では）長いようで短いビリングスの訪問は、私に人や文化との“出会い”、文化の違いによる“刺激”、そこから得た“学び”を得ることができました。英語が未熟だったためにリアルな日本文化を伝えられなかったことが今では心残りです。日本で英会話を必ずや習得し、何年後になるかは分かりませんが、いずれまたモンタナ州ビリングス市を訪れて、日本の文化を伝え、新しい刺激を受けたいと思います。